

令和7年度 江戸川区立南小岩第二小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 考える子＜問題解決力＞ ◎ 思いやのある子＜人間関係形成力＞ ◎ 健康な子＜実践力＞ 				自指す学校像 自指す生徒像 自指す教師像	<p>【学校】◎いじめを見逃さない学校 ○情に弾ける学校 ○希望に満ち溢れ、生き生きと学ぶ心</p> <p>【児童】○自ら学び、課題を見つけて、よりよく解決することができる子 ○自己のよさを尊重し、それを社会に役立てようとする子</p> <p>○自己健康づくりに努め、明るく活動ある生活を送ることができる子 ○他のよさを尊重し、それを社会に役立てようとする子</p> <p>【教師】○指導力向上を図り、児童が楽しく学べるようになる教師 ○できだことをほめ、児童と共感する教師</p> <p>○教育目標をより具体化するための指導における教師</p>		
前年度までの本校の現状	成果	ユニバーサルデザインの視点に立った授業改善に取り組んだ。 外部人材を活用した学力向上に関する取り組みを推進できた。				課題	ICT活用・学力向上・体力向上に関する取り組みを充実させていく。 ユニバーサルデザインの視点の授業改善をさらに進めていく。	

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」 自己（学校）評価(A～D)		「中間」 学校関係者評価(A～D)		自己（学校）評価(A～D)	「年度末」 学校関係者評価(A～D)	次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント			
学力の向上	○基礎・基本の定着	・「二小字学習スタイル」の定着 ・家庭学習強化週間の実施 ・放課後学習教室、スッキリタイム（学校毎の放課後補習）の実施 ・保護者ホットラインの協力による基礎タイムの実施 ・東京ベーシックドリル、区学力定着度調査の実施	・3学期65%以上が全項目達成 ・各学期1回 ・年35回、放課後30分程度 ・毎週水曜日、朝15分間 ・3年生以上、各学期1回	90%	A	・1学期初7割未満全項目を達成した。 ・2学期のスタイルワークを実施済。 ・1学期は計画通り実施した。 ・保護者の協力で基礎タイムを行っている。 ・1学期初、末に東京ベーシックドリル、区学力調査を実施した。	A	・個別対応に主力頑張っていることに感謝します。基礎タイムを、有意義に感じます。 ・「二小字学習スタイル」の10項目が毎日の繰り返しにより確実に定着すると想い。				
	○巡回指導の充実	・巡回指導教員、特別支援教育コーディネーター、特別支援教室専門員及び各担任との情報共有、個別指導への活用 ・保護者との理解の促進（保護者会での案内）	・毎日実施、情報共有実率100% ・毎学期実施、当該保護者満足度90%以上	100%	A	・毎回の指導について情報共有を行っている。 ・1学期に巡回指導の保護者会を実施した。	A	・年始から恐らく強く対応頑張っている様子を拝見した。ありがとうございます。 ・子どもたちが色々な面で見守られている。				
	○読書熱の更なる充実	・読書意欲の向上 ・読書への関心を高める「よむYOMUワークシート」の実施	・読書タイム週2回以上、読書週間2回、読み聞かせボランティア毎週木曜日実施 ・4年生以上、年30回	90%	A	・朝読書、読み聞かせボランティアは計画通り実施している。 ・よむYOMUワークシートは現在まで14回実施した。	A	・読む事や聞く事の関心が高くなっています。 ・読書タイムの充実が読書意欲を向上させている。				
	○GIGAスクール構築の更なる実現	・授業の中での児童用iPad活用 ・個別学習や家庭学習としてドリルバークやまるぐらンドを活用	・毎回の授業で5分以上活用 ・週1回以上、日常的に活用	70%	B	・毎時間の活用はできていない。60%程度にはいる。 ・朝会、授業、家庭学習で日常的に活用している。	A	・iPadでの授業はすごく良いと感じる。ただ画面に近づけすぎ注意してみてほしい。 ・朝会を画面に近づけすぎだけ注意してみてほしい。				
体力の向上	○運動意欲や基礎体力の向上	・二小タイム（運動遊び）の実施 ・運動遊びに生かす為、体力テストの結果分析 ・戸外運動時間延長（朝練）の実施 ・継続バランスの上位入賞 ・学期毎の行事（運動会、長距離、持久走）の継続実施	・年間、毎週水曜日 ・2学期は月曜日 ・年2回、実施 ・年2回、実率100% ・区内の上位入賞 ・各行事及び練習期間実率100%	90%	A	・2学期から火曜日の朝に屋内実施している。 ・2学期の継続ワークを行った実施中。 ・3学期に向けて記録を伸ばしていく。 ・計画通り実施している。	A	・活気ある環境が健康維持に役立っていると感じる。 ・「運動的な組合により子供たちが楽しみながら頑張っている様子が見られほほえましい。				
実現生の社会性の醸成	○インクリューシブ教育の推進	・ユニバーサルデザインの視点での学習環境整備 ・ユニバーサルデザインを視点とした校内研究 ・支援シートによる個々に応じた対応 ・副籍交流等の計画的実施	・教室環境、言語環境整備100% ・年1回実施 ・対象児童保護者の満足度90%以上 ・副籍交流等の実率100%	90%	A	・学校で統一して、教室環境を整備した。 ・9月までに5回の校内研究を実施した。 ・SC、巡回指導教員と連携し対応している。 ・副籍交流等は計画通り実施している。	A	・継続をお願いしたい。				
	○体験的活動、自生活行動の推進	・地域内外、外部人材を活用した共生社会実現に向けた教育の推進 ・たてつけ組（異年生入交）の実施 ・あいさつ運動の実施 ・高学年全員による鼓笛隊の実施	・年3回 ・学年交代年間計画実率100% ・通年 ・区民祭り等への参加	100%	A	・2学期は不二一年体験、能楽教室を予定している。 ・11月の校内オリエンテーリングに向け、たてつけ組活動を計画的に実施した。 ・代表委員会によるあいさつ運動は通年で実施している。	A	・区民祭りでの鼓笛隊素晴らしい。将来を楽しみに思ふ。				
不登校	○子どもたちの健全育成に向けた取り組み	・「L-Gate」による毎日の振り返り ・適応教育の充実、いじめ防止授業の実施 ・校内委員会の効果的実施、全職員での支援体制の構築	・全学級、実施率100% ・年3回、実施率100% ・毎月実施	80%	B	・佛の会で全学年で実施している。 ・適応においていじめ防止の授業を実施している。 ・校内委員会は毎月実施している。	A	・いじやりの環境づくりが、子どもたちの健常性を育む。 ・いじめの防止基本方針で、先生方の組織的な取組と事実収拾に期待する。				
	○障害者との連携によるいじめ、不登校等への対応	・SC（ひきかげ）SSW（スクリーニング）との連携、適切な活用 ・いじめ対策委員会による組織的対応	・エンカレッジルームの活用	90%	A	・情報共有率100% ・事実の度合い開示 ・事実把握後1週間以内に行動、成果の確認 ・保護者との連携100%	A	・SC、SSWと連携し、情報共有をしていく。 ・いじめに該当する件について、いじめ対策委員会を開催した。生活指導連絡会は毎週行っている。 ・エンカレッジサポート2名体制で運営できている。				
学校への関わりの醸成	○地域社会との連携	・HP（ホームページ）等による情報公開 ・学校応援団との連携	・毎日更新、各学年は月2回以上更新 ・学校関係者評価A	95%	A	・HPは毎日更新している。またテントによる情報発信は日々行っている。 ・看板ポスター等と連携して図書室の整備を行っている。	A	・地域のお祭り・PTA関連行事への教員の連携に、子どもたちがとても喜んでいる事が印象的だった。				
	○学校関係者評価の充実	・学校経営方針の保護者、学校関係者への周知…年度当初 ・保護者アンケートの実施、結果の周知 ・教職員及び学校関係者中間評価による方針の修正及び追加、年度末評価の実施による次年度改善後の立案	・年度当初 ・定期（年2回）、各行事後（毎回）に実施し、1ヶ月以内の結果周知 ・9月、2月に実施後、改善策を立案 ・中間評価を行っている。	90%	A	・学校新規者は保護者や学校関係者に周知し、HPにも掲載した。 ・保護者アンケートの1回目を実施した。 ・中間評価を行っている。	A	・計画性を持って取り組まれていること、年賀を贈りして安定した様子に感謝する。				
教育の特徴ある開拓	○学校における働き方改革プラン	・C4トネの積極的活用、ペーパーレス促進 ・各分掌事による文書起案、各掌管ルートによる進行管理 ・会議の効率的実施及び時間短縮 ・SSS（スクリーニング）等の有効活用 ・定期評定日の実施 ・教科担任制の推進、協働体制 ・育児休業等休暇、休業制度の活用促進	・毎日、C4トネ活用率100% ・経緯実施率100% ・20分以内、経緯実施率100% ・活用率100% ・月1回実施、残業月40時間以内 ・4～6年で実施 ・教職員への周知100%	90%	A	・C4トネは日々活用している。 ・文書の起案はルート通り回っている。 ・1回の会議が20分以内で行われている。 ・効率的SSSを活用している。 ・80分以上は残業40時間以内である。 ・計画的に教科担任制を行っている。 ・2年後1名の女性教諭が育休を取得中である。	A	・学校環境が継続的に安定出来ることを望む。 ・具体的な取組内容を聞き、とても期待している。				
	○教員の授業力向上	・週毎の指導計画に基づく教育活動の計画的実施及び反省の記載 ・ユニバーサルデザインの視点に立った授業の実施	・毎週、活用率100% ・校内研究授業実施100%	90%	A	・週毎各週提出されている。 ・校内研究には全員が参加している。	B	・教員と子どもの心の距離がとても近く感じられる。担当のみならず学校全体で子どもを見守っている環境だと感じた。教員のサポート体制について、よりよい環境を作ってほしい。				